

〔共同研究〕

『仙芥集』翻刻③

中世東国仏教研究会

はじめに

『仙芥集』は、中世鎌倉の地で精力的な受法活動を行った真言僧定仙（一二三三～一三〇二）の受法記録である。その写本は管見の限り称名寺聖教（神奈川県立金沢文庫保管）にのみ伝存しており、当研究会ではその写本を底本として翻刻研究を行っている。

称名寺聖教本『仙芥集』は目録上で全三十二部という大部のテキスト群であるので、全体の翻刻、全貌の把握には時間を要する。これまで当研究会では各メンバーに担当するテキストを割り当てその担当者が翻刻作業を行い、その推敲を全員で行う形で進めてきたが、本年度からは担当制を廃止し、研究会開催時に出席者全員で翻刻作業を行う方式に改めた。試験的な新方式導入であったが功を奏し、前年度までの以上のペースで翻刻を行うことができた。

一昨年の初年度の年報では第一弾として定仙と『仙芥集』について概説し、称名寺聖教『仙芥集』全冊分の書誌データを掲載した上で、十三函一一の翻刻を掲載した。昨年度は十三函一一四・七・八の三本について解題を付し翻刻を掲載した。テキスト番号が飛び飛びなのは学術的な意図があった訳ではなく、

担当制のため順番通りには完成させられなかったという事情からである。本年度からは番号の若い順に全員で作業を行ったため、一三函——二・三・五・六・九の五本分を資料整理番号順に発表できることとなった。

解題

今回翻刻したテキストは一三函——二・三・五・六・九の五本である。その書誌データと共に内容を概説する。

①一三函——二

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙右上）廿三帖内 （表紙中央）三宝院／青雨経法事／轉法輪法事／後七日

兩種護牘／加句事 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕鋸阿

〔装丁〕綴葉 〔紙数〕四紙八丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕一四・四／二二・二

〔行格〕十一行／十二行 〔手沢者名〕鋸阿（梵字）（表紙左下） 〔加點等〕合点・訓点あり 〔保存

状態〕修理済

三宝院流の請雨経法・転法輪法・後七日兩種護摩加句についての口伝を記したものの。識語が無いため伝授に係る状況は不明であるが、本文中に「了一上人」という記述が散見されることから、了一人公然の伝を記したものと考えられる。公然については不詳であるが、血脈類によれば三宝院流の末流である遮那院流と意教流を相承している。

②一三函一—三

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙右上） 廿三帖之内 （表紙中央） 三寶院／親玄法印説／四度加行／許可作法事／同本二本在之／愛染王次第第四本／授之次第事

〔本文残存状態〕 完全 〔書写者〕 鈔阿 〔装丁〕 綴葉 〔紙数〕 四紙八丁 〔料紙〕 楮紙

〔法量〕 一四・五／二・三 〔行格〕 十一行／十二行 〔手沢者名〕 鈔阿（梵字）（表紙左下）

〔加點等〕 訓点あり 〔保存状態〕 修理済 〔識語〕 正應四年六月廿六日、承大政法印御房口傳記之、定仙

本冊は三寶院流の四度加行・許可作法・愛染王次第について三寶院流の末流地藏院流を相承する太政法印親玄（一二四九～一三二二）の口伝を記したものである。識語の正應四年（一二九一）六月二十六日は親玄より承った日であるか、それともこれを記した日であるかは判然としないが、記した日とみるべきかなお表紙裏は正應四年十一月二十日に追記したものである。

③一三函一—五

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙右上） 廿三帖之内 （表紙中央） 三寶院／親玄法印口伝／請雨經事／太元

事／守護經事／愛染王次第事／白表紙受法次第 〔本文残存状態〕 完全

〔書写者〕 鈔阿 〔装丁〕 綴葉 〔紙数〕 六紙十二丁 〔料紙〕 楮紙 〔法量〕 一四・五／二・七

〔行格〕 十一行／十二行 〔手沢者名〕 鈔阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕 合点・訓点あり 〔保存

状態〕 修理済 〔識語〕 正應三年九月廿二日、親玄法印以日記示之云々、定仙 一交了、

本冊も親玄の口伝を記したものであり、三寶院流の請雨經・太元・守護經・愛染王次第・白表紙受法次第について記している。この内「白表紙」は、三寶院流の諸尊法集『秘鈔』の異名である。識語は二つあ

り、「太元」の後には正応三年（一二九〇）九月四日とあり、卷末には正応三年九月二十二日とある。

④一三函一—六

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙右上）廿三帖之内（表紙中央）三宝院／親玄法印口傳／三六院舍利事／自行次第事／妙竹事／大法秘法等事／如法愛染次第印相并口傳等／如法尊勝事／請雨經事／祖師開眼事／馬陰藏三昧地事 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿

〔装丁〕綴葉 〔紙数〕八紙十六丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕一四・五／二二・五 〔行格〕十行／十二行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕合点・訓点あり 〔保存状態〕修理済 〔識語〕正應三年九月廿七日、定仙記之、

三宝院流の三宝院舍利・自行次第・妙抄・大法秘法・如法愛染次第・如法尊勝・請雨經・祖師開眼・馬陰藏三昧地について親玄の口伝を記している。識語によれば正応三年九月二十七日に記したことは確かであるが、それが伝授の日付であるかは不明である。

⑤一三函一—九

〔外題〕仙芥集 〔角書〕（表紙右上）廿三条内（表紙中央）三宝院／大法并修法等／作法儀式等 〔本文残存状態〕完全 〔書写者〕釵阿 〔装丁〕綴葉 〔紙数〕四紙八丁 〔料紙〕楮紙 〔法量〕一四・四／二二・三 〔行格〕八／十一行 〔手沢者名〕釵阿（梵字）（表紙右下） 〔加點等〕合点・訓点あり 〔保存状態〕修理済

三宝院流の大法・修法等・作法儀式について口伝を記したもの。

本文中に「宰相阿闍梨云」「了上上人云」「大政法印云」とあることから、一人の阿闍梨の口伝を記したのではなく、定仙が受法した三宝院流各師の伝をテーマごとに並記したものと考えられる。

以上、今回掲載する五冊はすべて三宝院流に関する受法記録である。

【参考文献】

『称名寺聖教目録』全三巻、文化庁文化財部美術学芸課（2006）

『仙芥集』翻刻

〔凡例〕

- 一、原則として新字に統一して翻刻する。
- 一、合字は新字による一般的表記に改める。漢数字の略字についても同様である。
- 一、繰り返し記号について、漢字は「々」、仮名は「〃」に統一する。
- 一、梵字はローマナイズして記す。
- 一、脱字の挿入箇所に記載された小さい丸は○で表記する。その傍に記載されている挿入する文字については、○の下の（ ）中に記す。

一、文字の接続を示す「」は略す。

一、送り仮名に用いる略字・合字は読み通りの表記に改める。(例) シテ、トモ、コト

一、割注は〈 〉で括り改行箇所に入れる。

一、声点は、声点が付く文字の後に四声名を()で括る。濁音の場合は四声名の後に「濁」と記す。

例…平声の場合↓(平)、上声の濁音の場合↓(上濁)

①【十三函一―二】

〔表紙〕

二十三帖内 kem a (釵阿)

請雨經法事

三宝院 転法輪法事

後七日両種護摩

加句事

仙芥集

〔表紙裏〕

√此法ハ故ラ請神祇冥道ニ故ニ不引概

五色ニ為請実類神祇等ヲ也

且不用ニ結界ニ此等義、見次第

中ニ事

√勤行間神祇等御ス故ニモノイミヲスル也

仏供等ヲスルニモ何レノ法ニモモ打ト火ヲ故ラ

此ノ法ニハ打テ火ヲ仏供ヲスル也事

本尊事

大輪金剛明王也弥勒直金輪身

也 印真言ハ大金剛輪印真言也

以此印言ニ為本尊印言ニ軍タリ

儀軌中説之ニ此明王与軍タリニ

体也、故用大金剛輪印言ニ也、

三宝院呪者異説ニ白表紙初記之

〔本文〕

請雨經法

問声聞中以須菩提為眷属

有子細耶 答嘉祥

金剛般若三卷疏云東

方青龍陀仏化身〈文〉

此仏主龍^{ツカサトル}ニ仏ノ故ニ垂迹ノ

須菩提ヲ為眷属〈云云〉

但付証有大儀軌〈云云〉

轉法輪法

一才

(＊表紙裏の記述をここに挿入する指示あり)

曼陀羅事

曼陀羅ヘ理趣經ノ金剛

輪ノ曼陀羅也三寶院

經藏ニ在之尊形ニ図

会ス之自昔ニ在之一定

濟僧正勤行時被懸

之余処ニシテハ種子曼

陀羅ヲモ用ニ曼陀羅

儀式ハ道場觀中、在之

坐位等皆在之〈云云〉

此法為大法ニ耶、為秘法ニ耶

非大法ニ秘法也護摩

一ウ

壇許也 普通修法也

普通修法者護摩壇

許也 而_モ有伴僧_{一鉢ヲ}

ツカス鉢_ハ大法許_ニツク也

大法_モ結願許_ニツク也開白_ト

中間_{トノ}時_{ニハ}ツカサル也

伴僧事

故定濟僧正時_ハ伴僧九人也

(一行空白)

十字仏頂真言、在此法

中_一此法_ノ中_{ニシテ}讀_ム此真

二才_一

言_ヲ有子細_一事

庵縛曰羅サ(上)ト(平)フ(平濁)シユニシヤ、

ホロ〇(ム) *hum* ハタ、サト婆_ハ(平濁)_{ト書テ}

フ(平濁)トヨム也 此作法_ノ中_{ニシテ}

カヤウニ点_ス 但其由_{ヲハ}

不存知_一也 此法中_{ニシテ}フ(平濁)ト

ヨムヘキ道理有歟 相応

調伏_ニ音歟(可尋之)

(空白)

二ウ

三宝院経藏中^ニ元海

自筆次第在之^一其中^ニ

此真言ヲサトフト点也

仍以此^一為本^一決白表紙

等^一也但其^モフトヨムヨシ

ヲハ不付^一也

堂莊嚴事

如普通^一但伴僧^ヲハシヤウシ

ヲヘタテ^ハ置之^一也勸請

句^{ニモ}カミヲロシノ時^{ニモ}本尊^ノ

句^{ニハ}タ^ハウメキワタシテ分

明^{ニル}云^一也^ニ云云

用勤行次第並旧日記^一

事

了一上人云故定濟僧正時^ハ

勤行次第^ハ用白表紙^一

日記^ハ用覺禪鈔^ニ云云

尋云白表紙転法輪卷^ハ

三才

松殿法印云成賢僧正作也

〈云云〉了一上人云不爾^{マヤ}角

洞院僧正作也 又覺禪

抄記^{スル}角^{マヤ}洞院僧正ノ勤

行日記^ヲ也 故^ニ定濟僧

正^ニ一向用此^ノ二ツ^ヲ也 〈云云〉

院宣事

此法^ハ希^レ被^ル勤行^一然

間承^テ院宣^一書^ク人モ尋

大阿闍梨^ノ許^{モト}也 仍自

大阿闍梨^ノ許^{モト}書^テ故^ルキ

院宣ノ案^ヲ進^一之^一然間

如旧本^一書^テ之^一被^下也

不^シ知尋^ル大阿闍梨許^ヘ

故実^ヲカシケ^ニ書^テ

被^ル下^一也 〈云云〉

十六大護事

筒^ヲカ子^ニテ作^{ニハ}其^ノ上^ニ打

也 木^{ニテ}作^{ニハ}エリ付^一或

三ウ

四才

ウルシニテカク也 旧キ筒ニ

ウルシニテカイタルモアル也

(一行空白)

筒寸法事

高ハ十二指 (当六寸) 広ハ

八指、中ニハウスキ紙或

ウスヤウニテ尊身ニ怨

家ヲ図会ス スハリノ水ニハ

引生エム也 (ウシヲ也) 引生

エンハハシリノホルヲ口也

スミハタハノスミ也 体ノ

胸ハナニ性名ヲカク也 此ヲコマ

カニタハミテ筒ノ中ニ入ル

ホトニシテ入筒内ニ也

松橋ノ大僧都ノ日記云

サカサマニ頭ヲシタニシテ

入ルヘシトイヘリ

(空白)

安置筒ニ事

四ウ

五オ

非^ル時^ニトキハ入^{レテ}ヒモノ箱^ニ
紙^ヲタ[〃]ウテカリソメニ上^{ヘラ}
ユウ也 皮ハケカラワシキ
故ユイヲニセサル也
ヒモノ箱^ハヨホウニツ[〃]ノ
タカサニスル也 ヒロサハ
ヲリウツノヒロサ也 カシ
ラカケタリナントハセサ
ル也 タ[〃]カリソメニツク
ル也 至散念誦期^ニ
以承仕^ヲトリヨセテ自
箱^ニトリ出^テ護摩ノ油
器ノ前^ヘ金剛盤ノ内^ニ
置也 散念誦時^ハ未
金剛盤^ヲトリノケ
サル也 護摩ノ時トリノ
クル也 筒^{ヲモ}護摩ノ時^ハ
以承仕^ニ如本^ニ中瓶^ノ
後^{ロニ}ヲカシムル也 此法ノ爐^ハ

五ウ

為^ニ置^カ筒^ヲ「普通ノ爐

ヨリモ前^ヘ「少^キ広^ク

スル也 筒一ヲクホト也

散念誦間押筒「事

散念誦時^ハ以左手「取

念珠「以右手「作^テ忿

怒拳^ニ誦真言「反「

以此拳「押^{ヲス}筒「也

以右手「ツ^ツヲオサヘテ

ヲキテ誦真言「時

ヒトヲシツ^ツ筒^ヲヲス也

(一行空白)

忿怒拳事

以右大指「頭指中指ノ間^ヲ

サシ入^テサキヲスコシ出^ス

也(云云) 勸修寺ノ結樣^{ニハ}

カクル也 其^{レハ}以頭指「押^ス

大指ノ甲^{ツメ}ノ上「也 灌頂ノ枝木時ノ

忿怒拳^ハ少^{マデ}指^{ヲハ}ハ子ア

六才[」]

六ウ[」]

クル也 頭指^{ヲモ}ハ子アク

似金剛夜叉印^一 今^ハ不爾^ラ

後七日兩種護摩事

增益護摩^{ニハ}一切真言末^ニ

加息災增益兩句^一也

息災^{サイ}ノ護摩^{ニハ}一切真言

末^ヘニ加增益息災兩句^一也

我家^ノ句^{ヲハ}末^ニ置之^一〈云云〉

了一上人説也

一交了

七才^一

②【十三函一一三】

〔表紙〕

二十三帖之内 ken a (鈔阿)

親玄法印説

三宝院 四度加行〈同本二本〉

許可作法事〈在之〉

愛染王次第四本

授之次第事

仙芥集

〔表紙裏〕

不動護摩末記云為印公

禪門（俗名修範／法名靜円）被記之_一

親玄法印御房仰云遍知

院記之修範者成賢

僧正ヲチ也 小納言入道息也

正応四年十一月二十日記之

定仙

〔本文〕

了一上人云印公禪門者覺

洞院僧正ノヲト_二也印蓮

坊也故云印公_一宰相入

道_ト号_ス 俗_{ニテハ}修範_{シュヘン}（左_ミミチノリ）也

勝賢為此人_一造阿弥陀

護摩_一以此阿弥陀護

摩_一為本_一遍知院、

造不動コマ_一以此本_一

憲尋僧正ノ門流_{ニモ}又

親快法印門流_{ニモ}為四度

加行ノコマノ本_ト也今_マ一ノ

次第ハ勝賢高野ノ奥

院谷籠時、成賢隨逐

此人_一聞口伝_一記之_一大

事ノ事多在之_一諸尊

段召請印今_マ一ノ本_{ニハ}

五古印_ニ用慈救咒

此即秘藏事也 此次第_ニ

用大鉤召印_一也 如此_一

事少々在之仍奥院

本_{ヲハ}初心人不与之_一也_ト云云

四度加行事ハ親玄法印説

一地体ハ一年_ニ一界ツ_カ也雖

一才_一

一ウ_一

爾「長大ノ仁ハイソク故ニ亦
不然」ヒキツククル也

一 加行次第等在別「云云」

一 十八道兩界ハ七十日ニ受

之「其レニ出来スル様ニ与之」
也「云云」

一 加行ノ時ノ礼拝ハ病者ニハ二十

一反也

二才」

一 授十八道兩界「〇（次第 加行七十日ニナリヌレハ読渡シテ次第）ヤカテ

乍読「結ヒ渡ス印」也 唯

一度ニ授之「実賢」

方ニハ立印トテ作法ヨミ

渡シテ後、別時ニ立印トテ

スル也

一 十八道時ハ無シ別ノ行法」

然間大師御前有リ勤メ

又礼拝在之「金剛界

台藏界時ハ三時ニ行

十八道「故無大師勤」

二ウ」

又無礼拝「唯行法ノ前

後ノ三度礼拝也

一 加行七十日ニテ受法シ

ヌレハ ヤカテ暗誦スル也

觀法ト真言トヲヨクヲホ

ユル也 印ヲタニモヨク

オホヘハタノコトハ（平濁）ヲハ（平濁）

サノミロヲホヘヌ也

一 十八道後不授不動法

唯為ニ金剛界加行「十

八道ヲ三時ニ勤行之」

三才

為ニ台藏加行「金剛界ヲ

百日行之」也 以台藏正

行「為護摩加行」不動

法ハ護摩時授之「其時

不動法ト護摩トヲ暗

誦也

一 加持供物等印以水指「加

空指」也 如勸修寺」也

灑水加持時^モ爾也結

軍陀利半印^一時^ハ直

以空指^一押小指^一也半

印^ヲチカヘテ結^フ時^{ツク}作^ル

也コマノ時也灑水加持^ノ

時コトサラ以空^一加水^一也^{（云云）}

^一初行^ハ七日^ニ結願^{シテ}ツ^ツ

イテ正行^ヲ百日スル也

惣^{シテ}百七日也或^ハ具^{シテ}

初^メノ七日^一数^{フル}百日^一ヲ人

モアル也初行ノ初ノ字^ハ

対後ノ正行^一云初^ト也

又初行^ニ結願シヌレハ

其後^ハ依病患等^一退

スレトモ不答^一也

許可略作法有二本^一

同本也一本^ハ従法性

寺法印^一賜之^一静遍

受遍知院^一次第也

三ウ^レ

四才^レ

一本ハ從大政法印^一賜

之^一遍知院ノ自筆ノ御

本ニテ書寫之^一但

扨日事 加行事

道場莊嚴事、遍

知院本ニハ書^テ別紙ニ^一

具之^一法性寺法印

御房本ニハ末ヘニ書入之^一

也〈云云〉

四度加行重受事

一年齡^{レイ}タケテ已入壇ニ

ナリヌレハ略加行^一受法

許シテ初行^ヲ七日令^ル

行^{ハハ}也 初行七日許^{ニシテ}

ヤカテ授護摩^一也 此等ハ

皆可隨機^一也

天台三井等ノ人改宗^{シテ}入^{ニハ}東

寺^ニ如初心^一一々^ニ令行之^一

(空白)

四ウ

五才

五ウ

一灌頂重受事

長濟ノ人ノ不飲酒ナル

ニハ唯七日ノ護摩許也

非時者ニハ百日ノ護摩

也（云云）

（一行空白）

一愛染王次第有四本

与之一次第、

第一薄双紙中ノ作法ヲ授

初心人一次雖未入

壇一年モタケ功入レル

人ニハ授三十七尊次第也

次雖未入壇志深重ニシテ

行法有ラハ功ニ十七尊次

第、可与之（此ハ今少シ重スル也）

ユキ經ノ梵字ノ次第ハ与已

入壇人也（云云）

（空白）

正応四年六月二十六日承

六才

六ウ

大政法印御房口伝

記之

定仙

(空白)

七才

③【十三函一—五】

〔表紙〕

二十三帖内 kem a (鋊阿)

親玄法印口伝

三宝院 請雨經事

太元事

守護經事

愛染王次第事

白表紙受法次第

仙芥集

〔表紙裏〕

覺洞院建立事

勝賢建立也

最初^{ニハ}名持宝王院^一

次^{ニハ}名山兵^{カク}(入濁)東院^一

後^{ニハ}名覺洞院^一

〔本文〕

白表紙

第一卷 藥師法下 七仏

藥師法〈文〉 親玄法印云

藥師ノ段ナル故^ニ且借テ他

門名^一列之^一東寺^{ニハ}無

種子三形^一無行法次第^一

又無昔勤行ノ日記都

不見^一也 一向他家ノ行事

也〈云云〉

白表紙第二奥書伝授了〈在判〉

伝^ヘ授ケ了ヌト可読^一

成賢僧正判也 建永

一才

二年^ニ被授勝海^一也

以此本与道教^一 貞

応^ニ道教受之^一

勝海 成賢灌頂上足弟

子也 可為補処仁^一早

世故以道教^一 為補処^一

道教、梵漢俱能書

而早筆也

而サイクニシテレウシヲモシ

タ^ルム 雖大卷ノ文^{リト}レウ

シサハクリトモニ^ニ日^ハ

スキス書了ル也 如此器

量也 仍雖若老^一 為

補処^一也 〈云云〉

付如法尊勝〈文〉 親玄云明

海、元海^ニ問如法尊勝^一元

海云如法尊勝へ勸修寺、

様殊勝也 一向可被随

其次第^一不可有別子細^一 〈云云〉

一ウ

二オ

白表紙第四 付之^一以駄

都^一為第四^一本^{ヨリ}如何

法印云ヒカ事也 覺洞

院ノアラフミノ時在之^一

雖然^一秘鈔内^ニ不入^一不

可云第四^一題目ヒカコト也^一云云

(一行空白)

十四卷有如法愛染次第^一

法印云非醍醐相承次第^一

故親快法印、從理智

院^一伝之^一持之^一其

タ^一ノ愛染王法^ニ書

具^{シテ}為^{シテ}一卷^一名十四卷^一

私人副之^一醍醐^{ハ本ト}

欠セル也 無十四^一也^一云云

雖爾^一相承目錄中^{ニモ}

後人書入之^一其後

部書歟 今目錄^ハ

遍知院目錄也 一紙^ニ

二ウ

コマカニ書之^一 覚洞院

時書写本^{ニハ} コヲカケ

タリ^一 (云云)

一 醍醐如法愛染次第如何

法印云以 a 為種^一 以

宝^一 為^二 作大日^一々々心

月輪^ニ ho hah^{字ヲ} フイ

テ出愛染^一 勸修

寺也 心月輪^ニ 置^{hum}

字^一 三形五古、出愛

染醍醐也^一 (此異之)

(空白)

白表紙第五

奥書云東寺末葉成

賢^一 (文) 法印云成賢所

授文也 手鑑^ハ 賢寛

阿闍梨^ト云モノ書之^一

末日記云^ト外題^ハ成賢

書之^一

三才^一

三ウ^一

(一行空白)

須菩提為眷屬事

法印云口伝云五百生龍

身也 仍祈雨時、以此弟

子「為眷屬」(云云)

四才

注(シユ／ソク) 此法時訓也 注(チウ／シルス)

州ノ用也 今不用之

生色^{スミ}也 而青^シ蓑^ミ

法印云無別口伝也(云云)

法印云此法^ニ以^ハ釈迦^ニ為

本尊^ニ事^ニ殊秘^ニ之^ニ也(云云)

(一行空白)

コレノ次第ノ陀羅尼^ニハカンナヲ

付成賢本^ニハ不付^ニ雖

爾^ニ一々^ニ以^ハ彼^ニ為^ハ本^ニ交

直故以彼^ニ書写スト

ヲクニ書也 法印御房ヘモ

其由申也

四ウ

(一行空白)

行法頸次第中云次

字輪觀次

次正念誦〈文〉表次ノ字_一

下ニ無字_一如何法印仰

云本尊加持歟成賢

僧正御本如是_一〈云云〉

(空白)

白表紙十五大元

次請金剛衆親玄云

二手舒五指_一ノケサマ

ニ仰テ小指ノハシヲサシ

並余ノユヒヲ任_テ文_ニ
_一

印ヲツクルヘシ

私云共ニ仰_ケテ合掌_ヲ可訓_一

共ニ仰_ケ合掌_シテトハ不

得意_一也法印云爾也〈但可用上注〉

側合_ヨ可訓_一
_{ソヘメ}

次二十八部

√然後二中指二無名指

五才_一

五ウ_一

相纏如索^一 法印云

右ノ中指、無明^{マヤ}指ヲ相ヒ並^ヘ

左ノ中指無明^{マヤ}指ヲ相並^テ

互ニクム也 次ヒキナヲ

シテムスヒニクケレトモニ頭

指、二小指、共立合、二

大指並立^一云云

自余印等モカスカニ大事也

√次修羅戰軍

十分許者一寸也^一親玄法印ノ説也

寂命者付此法^一明匠也

サル人アリケル也 此印ヲ唯

金剛合掌ニ結^ヘト云事也

次着衣甲

右手作拳者金拳也

サキ大指ヲヌキ出シテ立也

先繞頭^ヲ二匝者ム子

ノ前^ヘニ持^テメクラスイ

キヲイヲナス也 次以右

六才^一

手「執左衣袖」作曳

著之勢「者法印仰云

以右手「取左袈裟ノ角」

右ノカタヘヒキマワス也〈云云〉

六ウ」

衣甲ノ々義如何師云不知「

〈云云〉

次千輪 師云千フクノ輪也

次弓箭 三度彈指〈文〉

印^{ヲモ}作^{ヘシト}普通彈指「〈云云〉

師云ウルワシク彈指セヨ

ト口伝スル也

√次入我々入 道教本

如此「入我々入也〈秘云爾也〉〈云云〉／法印説也

√第七印

振之「〈文〉法印云振之」也

召ク義^{ヲハ}不被存知「

〈云云〉

七才」

第八印^ハ無相違「

預立^{アタウタテ}劔^ヲ輪^ヲ「師云立^{タテ}

釵^ヲ与^ハ輪^ニ
一^ニ与^ハ音同故

立釵^ハ右印也 与^ハ輪^ハ左

印也 与義如何 師云

不知^一（云云） 私云置^チ（ヲク）義也

以釵^一立^{タテ}置^{ヲク}輪^ニ義也（云云）

（一行空白）

正応三年九月四日以親玄

法印口伝書之^一了

定仙

守護經法

親玄云自御屋所望^{シテ}勤

行^シ此法^一御^ス此法ノ勤行

タヘタリトテ被行之^一其

時法勝寺塔焼失、仍

不吉也^{トテ}小野広沢

不行之^一（云云）

（空白）

（空白）

愛染王次第事

七ウ

八才

八ウ

先タ^二ノ次第ヲ可^レ与^一 次三十

七尊^一、次十七尊、

(一行空白)

一白表紙切紙次第在之^二何

時始之^二耶、親玄法印云

成賢僧正、最初^ニ以白

表紙^一許石山範賢僧

都^一是白表紙ノユルシハシ

メ也

此ノ範賢ノ本ハ切紙ニセラル^二也

其以後切紙流布^{スル}

歟^ト (云云)

(空白)

白表紙受法次第

道教受遍知院^一次第

先第八卷 次第九 第一

第二 第三 第六 第十

第十一 第十三 第十六

第十七 第四 駄都卷ノ外也

九才^一

九ウ^一

第十二 六字 愛染

〈如法愛染流布／十四也〉 第十五 〈太元〉

第五^ハ 輒^ク不授人^一 欠卷^{ニテ}

カケタル卷^ノ分^{ニテ}アル也

付弟外不授之^一 後七日^ハ

題名許也 仍是^モ不授^一

付弟^ニ以別本^一内々授之^一

(一行空白)

正応三年九月二十二日親玄

法印以日記「示之」〈云云〉 定仙

十才」

(空白)

一了

十ウ」

④【十三函一—六】

〔表紙〕

二十三帖之内

kem a

三宝院舍利事

自行次第事

妙抄事

大法秘法等事

如法愛染次第印相並

口伝等

三寶院
〈親玄法印口伝〉

如法尊勝事

請雨經事

祖師開眼事

馬陰藏三昧地事

仙芥集

〔本文〕

一三寶院舍利何粒耶

法印云三十二粒也

一副宝類者何耶、

法印云二十種香藥也

付増益「合之」也 蘓香_{そこう}

香也 非安息香^一

一自行次第^ニ誰作耶

親玄云実運作之^一

問其中法花等法、同人

作之^一耶 親玄云爾也

但別御遺告文^一事ハ覺

洞院也〈私加之〉

一增益護摩次第、誰作耶、

親玄云覺洞院作也〈云云〉

(二行空白)

一自行次第、許未入壇人^一

耶、親玄云未入壇^ノ

人^{ニハ}許ホロン字ノ次第^一也

合^ニ自行次第^{ヲハ}不許^一也

一雖已入壇人^一許自行

次第^一時^ハ除五種法^一別

書^テ之^一可^一与^一也 取^{リテモ}已入

壇人^ニ可授大事^一弟

子^ニ此次第^{ヲハ}皆具許之^一

一才^一

一ウ^一

也〈已上親玄／説也〉

一勝円法印早世^{ヲハ}関東^{ニシテ}

輒許自行次第^一又

輒造作宝珠^一此^二ノ失也^ト

本寺^{ニハ}沙汰^{セシ}也〈云云〉

一此等次第^ハ本寺^{ニモ}受之^一

人希^レ也〈云云〉

一覺洞院以自行次第^一

為一期所作^一者実爾

耶 親玄法印云

爾也

一一期之間^ハ供歟護摩歟

親玄云供也〈云云〉

一此次第^ハイカホト可重^一

耶、親玄云与大事^一

同^シ物^ニスル也都輒不授之^一

一覺洞院、出家御祈^{ニモ}

勤^{メテ}自行次第^一○教^{ニハ}

出別法名^一内々^ハ此法也^ト

二才

二ウ

承実爾耶、

法印云サソ不ケム〈云云〉

(一行空白)

一勸修寺^{ニハ}以愛染王^一

大事^ニ習イ三宝院

以駄都法^一為大事ノ習^ト

伝耶 法印云爾也

(一行空白)

一ユキノ塔図、在台皮

籠中^一耶 答云不爾^一

無之^一 三宝院為藏

中伝耶 答云委不

見之^一〈云云〉

(一行空白)

妙抄事

上ノ醍醐^ニ在勝俱低院^{(マ)ト}

云処 其処^ニヲクルスノ

常曉^{ケウ}(上)ノハカアリ 故云メ

ウト^一 音カヨウ故^ニ云妙^一也

三才

三ウ

其処^ニ住^ス故明海^ヲ云

妙僧都^一也 寛命作之^一

而早世^ス没後^ニ明海並

治之^一、コトハヲ副^{ヘタリ} 仍

云明海作^ト也 受印可^一

初心人^{ニハ}与之^一也 初十一

条後遍知院為五条^一

私云六条敷

(空白)

金宝鈔事

親玄云当時不用^一事

多^シ古^キ物也

(一行空白)

玄秘抄事

親玄云厚ホトハヲホヘ

無之 然間大事出也

台ノ皮籠中^{ニハ}本^ト

二卷也 今四卷^ニナス也 (云云)

(空白)

四才

四ウ

大法等事

大法 伴僧十六十八二十人

壇ハ大壇コマ壇

十二天壇聖天壇也

中ハ 伴僧十口八口十二人ハ

常ニ無也

壇ハコマ壇許也

小ハ 伴六人或四人

コマ壇許也

コマ壇許ニシテ 無ヲハハ伴僧一

唯コマト云也

供ハ内裏ニ輒無之ニ私

房中勤之一

(空白)

一東寺ニケン陀国シノケサ

トテ一ノ大事ノ袈裟アリ

三国相伝シテ真言祖師

着ト之ニ承ル 有人云

各不爾一羅漢等ノケサ也

五才
五ウ

親玄云ケンタ国シノ袈

婆ト申ハ真言ノ祖師

相伝シテ着之^一 惠果、

弘法ニ大事ノ物ヲ相伝スル

其中ニ在之^一 三國相伝シテ

真言ノ祖師等着之^一

今キレテ不着^一 タルミ

テソハニ置之^一 也（云云）

（空白）

如法尊勝 如法愛染事

親玄法印云如法尊勝

法者勸修寺寛信法

務ノ次第專用之^一 明

海僧都興然阿闍梨、

ヨリ合テ香藥等ノサハクリ

セラレタリ 其次第等也勝

賢僧正、無偏執殊勝

次第也 專可用之^一 仍入

加台皮籠^一 又明海移

七才
」

七ウ
」

醍醐「元海」反問如法尊

勝法「答云勸修寺様

殊勝也 其^レ不越^ス「夫^レヲ

可被用」〈云云〉

如法愛染者先以 a 字

為種「以宝珠」為三成

大日「々々心月輪」有^{コク}hah字

反成箭「々反成愛染」

已上勸修寺也

以 a「為種」以宝珠「為

三「成大日」〈此マテハ同也〉

大日心月輪「有^{コク}hūm字

成五古「々々反為愛染」

已上醍醐様也 台

皮籠中、作法如此「

親快法印ノ自理智院「

相承^ル次第、又白表紙

十四卷^ニ副^{タル}次第アリ

会^ニ同物也 是ハ勸修

八才

八ウ

寺次第^ニ同也

一灌頂五瓶^ニ五宝^ヲハ瓶ノ頸^ノ

ユイ付耶、亦入五瓶中^一

耶 親玄法印云当

時^ハツト瓶ノクヒニユイ付也^{（云ニ云）}

一醍醐流、後七日以 a 字^一

為種子^一以宝珠^一為

三形^一即此宝珠^ヲ勤

行^{スル}事有耶、同人云

旧日記中在之^一雖然^一

如先德作法^一者以 tri.h. 字^一

為種^一以宝珠^一為三形^一

成宝生尊^一以此^一為後七

日^一付此作法^一行也^{（云云）}

一請雨經法、以 a 字^一為

種子^一以宝珠^一為^{シテ}三

形^一成釈迦^一耶、同人云

此^モ爾也有此習^一雖然^ト

九才^一

九ウ^一

作法、付尺尊ノ種子三形

行之^一 先付先德作法

也^一（云云）

一 神ノ尊形、天懂ノ形像、

以何真言^一可開眼^一耶

親玄云常^{ニハ}以仏眼大日

真言^一開眼之^一也（云云）

一 親玄云開眼祖師^一時、不云

青蓮慈悲御眼^一也 唯云

慈悲御眼^ト也（云云）

問神如何 親玄云夫^{レハ}

不知^一（云云）

一 同人云秘法^ハ後夜^ニ重日

中^一大法^ハ後夜^ニ不重^一

唯昼勤日中^一也

一 東寺^ハ大法秘法以金剛

界次第^一勤之^一 但後七日^ハ

各年兩界行之^一其外^ハ

一向金剛界也（云云）

十才

(一行空白)

付愛染王口伝

有三重習^一 付印^一

一金剛界羯磨会三十七尊

印明結之^一

二^ニ羯磨会ノ明^ニ三摩耶会ノ印也

三^ニ付瑜祇經^一外五古印^ニ

誦ユキノ序品真言^一一々^ニ

ユヒノ体^ニ不配^一結外五

古印^一誦三十七尊種子^一

許也 無別子細^一 ユヒニ

アテ節等^ニアツルハ人ノ

私ノハカラヒ也 此流^ニ無其

義^一〈云云〉 已上付印也

√付愛染次第^一先^ハ許常^ノ

次第^一也 次^ニハ許三十七尊

次第^一也 次許三十七尊次

第^一也

三十七尊次第^ハ出瑜祇經^{ヨリ}

十ウ^一

十一オ^一

種子 hūn 字三形五古
眷属羯磨会三十七尊也
十七尊ハ出金剛王儀軌
自瑜祇「出^ル次第^ハナニモ
秘次第也 然自十七尊^一
可重^一 然間^{トモ}小野^{ニハ}
自三十七尊^一重十七尊^一也
(一行空白)

付道場觀

如射衆星光 親玄云
星出天^一出^{ルト}同時^ニ放
光呼之^一云射^レ光^一也 (云云)
左下手持彼^一文 定海
住内裏^一行修法^一有執
問^一持彼者如何 無左右^一
不申御返事^一 御返事^ヲ
申^{シツヘシト}云ヘトモ自^{ラハ}不^{シテ}
申^一反問勝覺^一以何
義^一可申上^一勝覺云

十一ウ

持所求^二可申上^一（云云）

十二才

（一行空白）

仍随体^二可得意^一有

怨^一時、持怨^二可打破^一

求官度^一時^ハ弘障^{クワント}

難^一也 求福^二時^ハ打出^一

切福^一非^二一准^一（云云）

（一行空白）

一射觀（今醍醐次第略之／別記之^二）

如^シ被^ル帶衣^ヲ（文）

親快法印委^ク記道教

口伝^一中^ニ有^二義^一

一云天竺人^ハ計会^ク時^ノ衣^ヲ

名^ル帶衣^ト也^一一衣^ヲ二

人^{シテ}クヒモソテモ此^ヲカフ

リテ非也 キヌノヤウナル

衣敷 是^ハ一衣也

一云同計会^ノ時^ノ衣也^二人^カ

衣^ヲ帶^{ニテ}ユイ合^テクヒモ

十二ウ

ソテモ一ニシテ二人シテ着シテ非也

是ハ二衣ヲ重テユイ合セテ

着非也（云云）

（一行空白）

々々野（自ノ名）斛（彼ノ名）行者ト与

他人一可ニハ和合一自名ハ

行者也 彼名ハ他人也

施主与他人一可ニハ和合一

自名ハ施主彼名ハ他人也

（一行空白）

√引箭一印ハ如勸修寺一

次印モ爾也

√次印ニ承右肘一者（ケシカラサルノミニクキ）

故ニ必モ不爾一右ノヒチノ

半ヨリ下ニ付之也（外ノ穴ニ付也）

觀スル承ト下ヲ也 御義也

次印注左蹟為之一勸

修寺ニハチトカタフク也是ハ

必シモカタフカサル也 御義也

十三ウ

次印 向下^一柔^ニ為^之^一

勸修寺^{ニハ}上ノ印ヲウツフ

スル許也 師云是^ハ不爾^一

並^{ヘテ}拳^一ウツフスル也

余印同勸修寺^一也

しゃく
jāh. 時^ハ二少指^ヲクム也 hūn

時^ハ二頭指^ノカシヲサシ

アワスル也 van. 時^ハ二頭指^ノ

クヒヲクム也コクノ時^ハフル

ウ也 振動十方^一時^ハ

コト^クシクフラス スコシキ

金拳ノサキヲ動^{スル}許也

次印^ハ同勸修寺^一也

(一行空白)

根本印

親玄云三寶院^{ニハ}タ^クス

クニ二中指^ヲチカウル許

也 ユミノヤウニハマケサル也

(一行空白)

十四才^一

五種相応印

一ニハ結此五印「五字ヲ一字ツ」

誦之一或結五印「五

字呪ト畔悉地トトリ合

スルナリ 一ノ口伝ニ不シテ

結此等印「唯結内五古」

誦 hūm 悉地「或息災ハ

或調伏等ニ何レニテモ配之也

不加相応句「仍内五

古ヲ結テ誦 hūm 悉地「事

両ト也 是三宝院

口伝也

一馬陰藏三昧地事

私云南方ハ午方也仍

入ト南方三昧地「云事

也此義如何 親玄云

雖有種々義「以此義」

為無難「義ト也」云云

十四ウ」

十五才」

正応三年九月二十七日

定仙〈記／之〉

⑤【十三函一―九】

〔表紙〕

二十三条内 kem a (鋊阿)

大法並修法等

三宝院

作法儀式等

仙芥集

〔表紙裏〕

（空白）

〔本文〕

マワリ御修法事

宰相阿闍梨云廻_リ御修法_ハ

調伏也 調伏諸ノ怨靈等_一

也 仍可着青黒色ノ淨衣_一

關東修法着白色淨衣_一

是不審也 又調_ハ能陀

羅尼_一吃声也 調伏（入濁）怨

靈_一音也 然間誦_ヲ能陀

羅尼_一知調伏_ト也 又御

加持時調伏_ニハ不用_一五大願_一

關東_ニ被用之_一不審也

（一行空白）

又僧正已上_ニナリヌレハ香_ノ

裙_□香ノ平袈裟、若_ハ

香ノ小袈裟也 淨衣_ハ

隨法_一着之_一 關東僧正

白色衣白色ノ袈裟_ヲ着_ス

是不審也

（空白）

一才

又ワカキ僧正ハコキ香ノ衣ケサ

一ウ

也 老体ノ僧正ハウスキ香ノ

衣ケサ也ト（云云）

（一行空白）

√平袈裟者カウノケサノ

スコシ少^キヤウナルヲ白色ニ

スル也 大旨カウノケサノ

牒葉也、少袈裟者

普通ノチヤウケンノ少

ケサ也（云云）

了一上人云廻御修法調伏也

アセミヲ花ニモ備之^一

立花^{ニモ}用之^一

御加持^{ニハ}用発願^一不用

五大願^一也

廻御修法神供事並

不結願事

大政法印云神供ハ毎月

三度也 十一日二十一日三十日也

二才

一日ニ雖可供之ニ前阿闍梨

供之ニ故也 闍東ハ不定ニ

歟 亦閻魔天供ヲワキ

壇ニ修之ニ也 為延命ニ

也

二ウ

供料事

公家ニハ三十石三十貫也

有人云闍東ニハ唯錢六十

貫也 ワツカニシテ不足也ト 〔云云〕

〔空白〕

用饒鉢事

鉢ヲツク事ハ灌頂ノ時也

曼陀羅供御影供時

同鉢ヲツク也 前供養

讃後供養讃同在之ニ

三才

不用鉢事

修法並大法ニ鉢ヲツカス

護摩ニモ鉢ヲツカス修

法並護摩ニ無前供養、

後供養讚^一大法^{ニハ}無

前供養讚^一後供養^{ニハ}

大阿闍梨自^ラ微音^ニ出

四智讚、本尊讚^一礼

時ノ讚^{ヨリ}スコシナカキ

ヤウニ出ス也 伴僧付之^一

也了^一上人云聽聞

孔雀經法^一セシニ後供

養時大阿闍梨微音^ニ

出四智讚孔雀經讚^一

付後七日^一金界年^ハ後

供養時、出四智讚^一胎

藏年^ハ出心略讚^一此等

許也 無別讚^一小御修

法^ニ金^ニ無後供養^ノ後^ノ

讚^一也

大政法印云小御修法^{ニモ}

後供養時出四智讚

本尊讚^一事^{アリ}随

三ウ^一

四才^一

人意樂」〈云云〉

又了一上人云理趣經ニハ無

前供養讚」有理趣經」

故也 有後鈴ノ後ノ讚」

尋云灌頂等用讚鉢」大法

等不用之」如何 了一上人云

昔ヨリ如是」シツケタリ

不知別由」〈云云〉

了一上人云故定濟僧正

如法愛染ヲ唯愛染王ノ

法ト名称シテ 大壇、コマ壇

兩壇ニテ被修之」伴僧

八人也 其時不出後供

養讚」也 如法愛染ハ

伴僧四口ニ減事不可

有也 〈云云〉

修法等儀式何処用之」耶

大政法印云内裏タイリ院家

撰録ノ宿処 大臣 公卿

四ウ

五才

宿所等^{ニシテ}用之^一也

作法等事

大法並修法^{ニハ}開白日中

初夜^{ニハ}後悔並勸請^ハ

用之^一〈聲明也〉後夜^{ニハ}五

悔^ハ聲明也 不用勸請^一

用發願^一也 指聲也

如御加持發願^一〈云云〉

發願^ハ如例^一心ノ内ニ勤之^一也

√如法尊勝法時ノ淨衣^ハ

淺黃色也 若宮僧正

御房若宮^{ニテ}正応四年

十月比勤行之^一卸ス或^ハ衣

コシ仍淺クソメナヲス人

モアリウススキハタ色

也〈云云〉

√廻御修ノ法^ハ以不動^一為本

尊^一也 大政法印

了一上人 宰相阿闍梨同

五ウ

也、

六才

不結願「不開白」事〈大政法印／説〉

不斷之御祈祷故不

開白「不結願」也〈云云〉

同人云不動ノワキ壇ニ

閻魔天供修之「也奉

為延命」也〈云云〉

修法可修分齊事

鎌倉中守殿並

大名等家ニ可用修法

儀式「耶

（空白）

√御加持發願句ニ護摩法

味重入貴体〈文〉此句ハ

醍醐ノ流ニハ不用也 武蔵ノ

僧都、用此句「未被

知之」歟

一交了

七才